

2011年6月の東北地方の天候

【6月の特徴】

○東北日本海側の多雨

(1) 2011年6月の概況

上旬から中旬は、梅雨前線が本州の南岸付近に停滞した。上旬は移動性高気圧に覆われ晴れの日が多く、中旬は天気が周期的に変わった。下旬は太平洋高気圧が本州の南で強まり梅雨前線が東北地方まで北上して停滞したため、曇りや雨の日が続き大雨となった日が多かった。梅雨前線に向かって南西から暖かく湿った空気が流れ込んだため東北日本海側で降水量が多くなった。

東北南部・東北北部ともに6月21日ごろ梅雨入りしたと見られ、東北南部では平年より9日、東北北部では平年より7日遅い梅雨入りとなった。(速報値。平年の梅雨入りは東北南部6月12日ごろ、東北北部6月14日ごろ。)

30日には仙台で34.4℃、大船渡で33.7℃の日最高気温を観測し、6月としては日最高気温の高い方からの1位の値を更新した。

月平均気温は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で高い。月降水量は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で少ない。月間日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で多い。

(2) 各旬の天候経過

上旬：この期間、移動性高気圧に覆われ晴れの日が多かった。期間のはじめはオホーツク海高気圧が出現し、冷たく湿った東よりの風が吹き気温が低かった。2日は日本海を低気圧が東進し山形県で、9日は寒気を伴った気圧の谷が通過し青森県で大雨となったところがあった。

平均気温は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で高い。降水量は東北北部でかなり少なく、東北南部で少ない。日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で多い。

中旬：この期間、高気圧と気圧の谷が交互に通過し天気は周期的に変わった。梅雨前線の影響は小さく降水量は少なかった。寒気を伴った気圧の谷が通過し、14日は福島県で、17日は秋田県で大雨となったところがあった。

平均気温は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で高い。降水量は東北北部でかなり少なく、東北南部で少ない。日照時間は東北地方で多い。

下旬：この期間、梅雨前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が続いた。南から暖かい空気に覆われ高温となった。21日は寒気を伴った気圧の谷が通過し秋田県で大雨となったところがあった。東北地方に梅雨前線が停滞したため、23日から30日にかけて各地で連日の大雨となった。

平均気温は東北日本海側で高く、東北太平洋側でかなり高い。降水量は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で多い。日照時間は東北日本海側でかなり少なく、東北太平洋側で少ない。

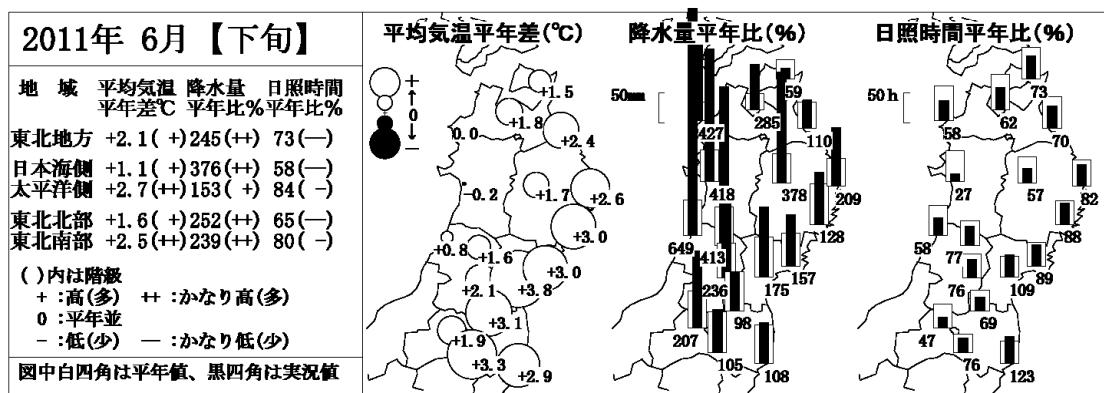
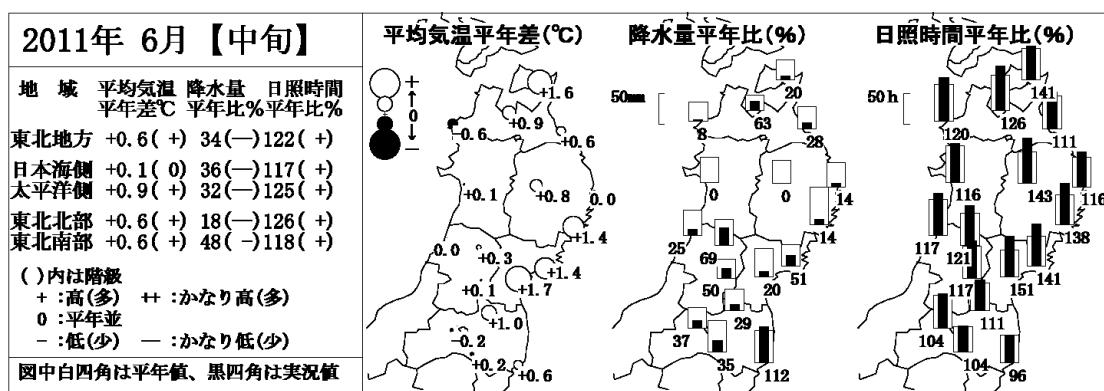
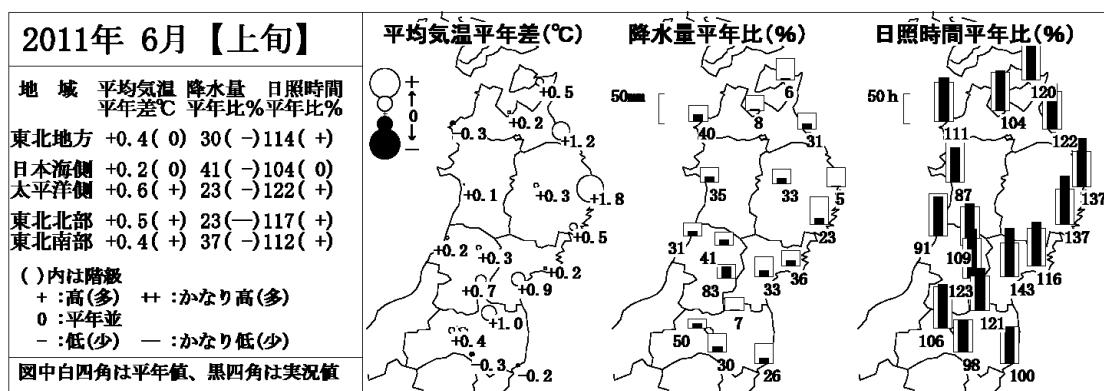
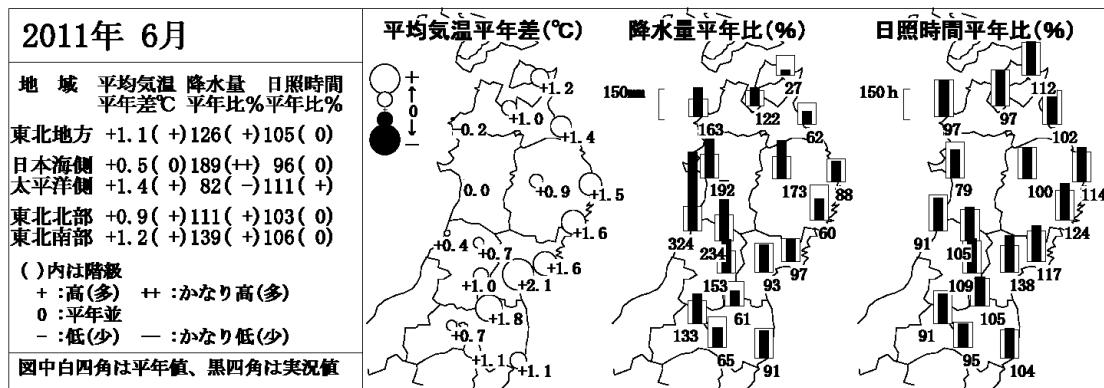
(注)気候統計値は、東北地方にある17地点の気象台、特別地域気象観測所の観測値より求めています(速報値)。

細分地域については2ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は1981~2010年です。階級区分については、3ページ目脚注2を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区気象台技術部気候・調査課統計係(電話：022-297-8110)

(3) 2011年6月の月・旬平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1981~2010年。

(注) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

(4) 2011年6月の月気候表

地 点 名	平均気温(平年差)		階級	降水量(平年比)		階級	降水日数	日照時間(平年比)		階級
	(°C)	(°C)		(mm)	(%)			≥1mm	(h)	
青 森	18.2	(+1.0)	+	92.0	(122)	+	8	174.1	(97)	○
深 浦	17.1	(-0.2)	○	144.5	(163)	+	11	177.6	(97)	○
む つ	16.9	(+1.2)	+	27.0	(27)	-*	6	181.9	(112)	○
八 戸	17.6	(+1.4)	+	65.5	(62)	-	10	171.2	(102)	○
秋 田	19.2	(0.0)	○	226.0	(192)	+	9	139.5	(79)	-
盛 岡	19.2	(+0.9)	+	190.0	(173)	+	8	154.9	(100)	○
大 船 渡	19.0	(+1.6)	+	104.0	(60)	-	13	183.2	(124)	+
宮 古	17.5	(+1.5)	+	102.5	(88)	○	9	170.7	(114)	+
仙 台	20.6	(+2.1)	+	135.0	(93)	○	9	184.0	(138)	+
石 卷	19.3	(+1.6)	+	111.0	(97)	○	10	176.1	(117)	+
山 形	20.8	(+1.0)	+	169.0	(153)	+	13	173.2	(109)	○
新 庄	19.6	(+0.7)	+	298.0	(234)	+	11	164.5	(105)	○
酒 田	20.0	(+0.4)	○	391.0	(324)	+	11	161.9	(91)	-
福 島	21.9	(+1.8)	+	75.0	(61)	-	9	143.4	(105)	○
若 松	20.8	(+0.7)	+	147.5	(133)	+	12	147.5	(91)	-
白 河	19.7	(+1.1)	+	98.0	(65)	-	15	119.5	(95)	○
小 名 浜	19.5	(+1.1)	+	136.0	(91)	○	14	148.3	(104)	○

(注) 1. 平年値は1981～2010年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+:高い(多い) ○:平年並 -:低い(少ない)

各階級の区分値は、1981～2010年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めた。

また、値が1981～2010年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「+」に*を付加した。この場合には

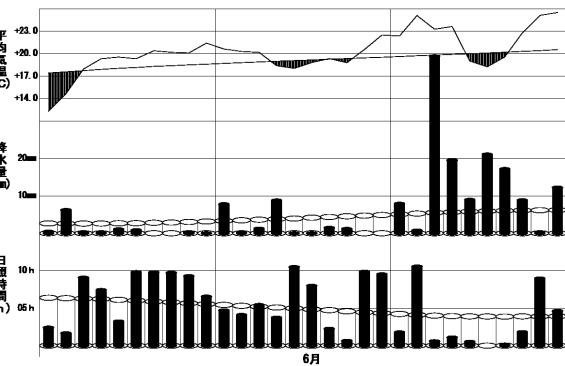
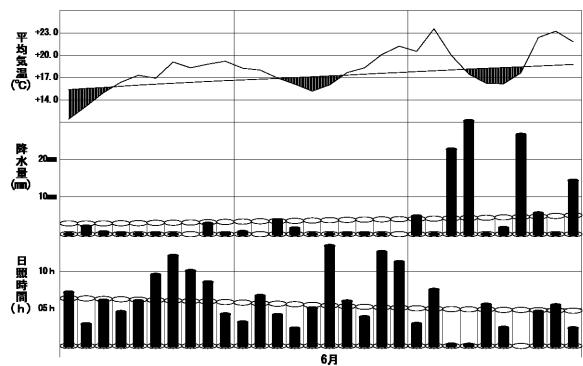
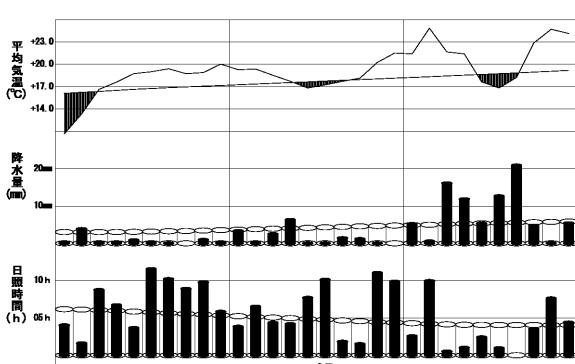
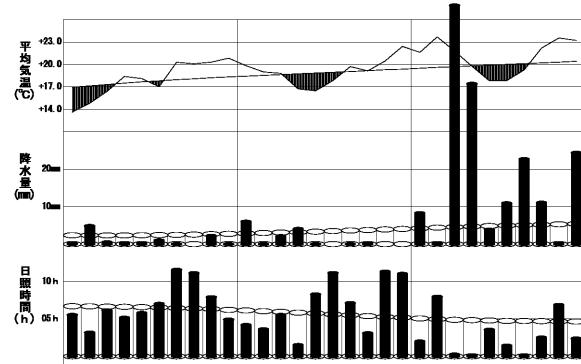
かなり高い(多い) かなり低い(少ない)

と表現できる。

3. 値の横に) や] がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが]付きの値(資料不足値)については、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。

なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

(5) 2011年6月の日別経過図



気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）

(6) 2011年6月の極値・順位の更新

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月平均気温高い方からの順位更新

順位	地点名	平均気温 °C	平年差 °C	これまでの最高 °C (西暦年)	開始年	平年値 °C
2	仙台	20.6 =	+2.1	21.4 (1979)	1927	18.5

月平均気温低い方からの順位更新

3位以内はなし

月降水量多い方からの順位更新

順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最大 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
1	新庄	298.0	234	288.5 (1990)	1958	127.2
	酒田	391.0	324	355.0 (1990)	1937	120.7

月降水量少ない方からの順位更新

順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最小 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
2	むつ	27.0	27	13.0 (1973)	1935	99.3

月間日照時間多い方からの順位更新

3位以内はなし

月間日照時間少ない方からの順位更新

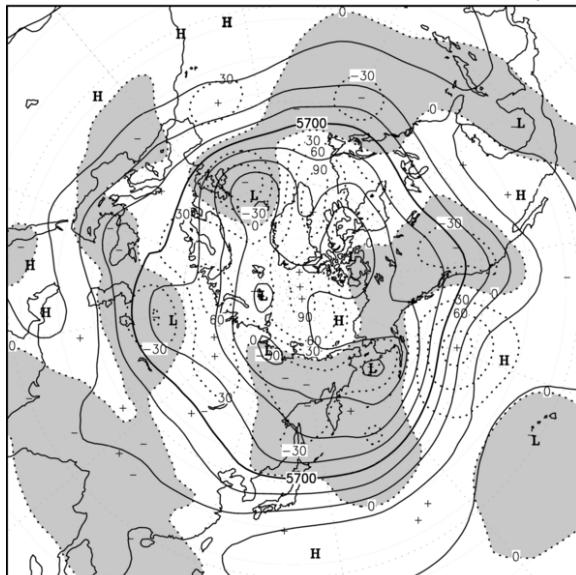
3位以内はなし

(7) 2011年6月の循環場の特徴

500hPa 高度は、太平洋から北米大陸にかけてとヨーロッパから中央アジアにかけて波列が見られ、沿海州から日本の東海上にかけては負偏差となった一方、本州から日本の南にかけては正偏差となった。南北の気温の傾きが平年より大きく、日本付近では前線や気圧の谷の影響を平年より受けやすかった。太平洋高気圧は、日本の南で東西に勢力を伸ばし、北への張り出しは強くはなかった。

梅雨前線は、上旬と中旬は本州の南岸付近に、下旬は東北地方に停滞した。

東北地方は梅雨入りが平年より遅く、中旬までは降水量が少なかったが、21日頃に梅雨入りとなり（速報値）、下旬は多雨となった。



2011年6月の平均500hPa高度

実線は高度(m)、間隔60m。点線は偏差(m)、間隔30m。
陰影部は負偏差（寒気に対応）

(8) 2011年の梅雨入りの状況（速報値）

地方	平成23年	平年差	昨年差	平年	昨年
沖縄	4月30日ごろ	9日早い	6日早い	5月9日ごろ	5月6日ごろ
奄美	4月30日ごろ	11日早い	6日早い	5月11日ごろ	5月6日ごろ
九州南部	5月23日ごろ	8日早い	20日早い	5月31日ごろ	6月12日ごろ
九州北部	6月5日ごろ	同じ	7日早い	6月5日ごろ	6月12日ごろ
四国	5月26日ごろ	10日早い	18日早い	6月5日ごろ	6月13日ごろ
中国	5月26日ごろ	12日早い	18日早い	6月7日ごろ	6月13日ごろ
近畿	5月26日ごろ	12日早い	18日早い	6月7日ごろ	6月13日ごろ
東海	5月27日ごろ	12日早い	17日早い	6月8日ごろ	6月13日ごろ
関東甲信	5月27日ごろ	12日早い	17日早い	6月8日ごろ	6月13日ごろ
北陸	6月16日ごろ	4日遅い	3日遅い	6月12日ごろ	6月13日ごろ
東北南部	6月21日ごろ	9日遅い	7日遅い	6月12日ごろ	6月14日ごろ
東北北部	6月21日ごろ	7日遅い	5日遅い	6月14日ごろ	6月16日ごろ

（注）梅雨は季節現象であり、その入り明けは、平均的に5日間程度の「移り変わり」の期間があります。ここに掲載した期日は移り変わりの期間の概ね中日を示しています。

「平年」は、平成22年（2010年）までの過去30年の平均（入り・明けを特定しなかった年は除外）の日付です。